

教 育 研 究 業 績

氏名 金 多允
学位： 博士(スポーツ医学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
健康・スポーツ科学	スポーツ科学

主要担当授業科目	ゼミ I-IV、トレーニング論、アーバン・フィジカルエクササイズ、エアロビックエクササイズ、健康・スポーツ心理学演習
----------	--

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 筑波大学体育系特任助教としての実践	2020年6月~現在	筑波大学体育専門学群1年次必修授業である「テーピング・マッサージ」のテーピングとマッサージに関する実技指導および実習のマネージメントを行なった。また、筑波大学体育専門学群3年次選択科目である「スポーツ傷害の予防とリハビリテーション」で上肢・体幹のスポーツ傷害についてその予防とリハビリテーションの実際について講義した。
2) 筑波大学人間総合科学研究科3年制博士課程スポーツ医学専攻在学時においてTF, TAとしての実践	2016年4月~ 2020年3月	筑波大学人間総合科学研究科スポーツ医学専攻ティーチングフェロー(TF)として、体育専門学群授業の「テーピング・マッサージ」、の実習指導を担当し、教育方法の工夫が認められて、優秀TF賞を受賞した。それとともに、人間総合科学研究科体育学専攻授業の「外科系スポーツ医学演習Ⅱ」、「アスレティックリハビリテーション論演習」、「アスレティックコンディショニング論演習」、「テーピング・マッサージ実習」を担当し、授業のマネージメントや学生の指導を行なった。
3) 韓国梨花女子大学の助手としての実践	2012年8月~ 2013年7月	韓国梨花女子大学体育科学科の助手として学生の指導の補助や入試・授業等のサポート業務に従事した。
2 作成した教科書, 教材		
1) 大学授業における教材	2023年4月~2023年3月	筑波大学体育専門学群の授業「スポーツ傷害の予防とリハビリテーション」で、学習内容の理解を促すため、資料を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
優秀TF賞受賞	2017年2月	筑波大学人間総合科学研究科3年制博士課程スポーツ医学専攻のティーチング・フェロー(TF)として授業のマネージメントや学生指導を行い、2017年度に優秀TF賞を受賞した。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 運動師資格研修	2023年1月~現在	Korean Association of Exercise Professionals 主催の第48、49、50回運動師資格研修会で体表面・機能解剖学の講義を担当した。
2) 筑波大学体育総合実験棟の運営・管理及びにトレーナークリニックを利用する学生への運動指導	2020年6月~2023年3月	筑波大学体育総合実験棟の運営・管理業務として、施設の管理、見学案内や実験室のマネージメント・管理に従事している。また、アスレティックトレーナー教育のフィールドである「トレーナークリニック」で学生の指導及び運営管理のサポートを行なった。
3) Tsukuba Sport Association トレーナー養成チームでの教育	2020年6月~2023年3月	筑波大学体育系関連組織の管理・運営業務にて、トレーナーチームのトレーナー養成チーム教員・関連教員として活動・協力を行なった。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許 1) 運動師資格	2014年2月	Korean Association of Exercise Professionals で認定する運動師資格取得 (第 1300996)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 筑波大学 GFEST 実習 2) 外部研究費資金獲得	2022年8月、 2023年8月 2022年4月~2025年3月	筑波大学 Global Front-runner in Engineering, Science and Technology の夏実習の担当講師として高校生を対象としてアスレティックリハビリテーションやテーピングの指導を行なった。 独立行政法人日本学術振興会における科学研究費助成事業若手研究(B)の研究課題として、「内反膝における腸脛靭帯炎の発生メカニズムの究明」についての研究活動に従事している。(2022年4月1日~2025年3月31日; 3,510,000円)
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) :				
(学術論文) 1 Sex differences in iliotibial band strain under different knee alignments 2 Possible factors related to increased strain of the iliotibial band in recreational female runners 3 Effectiveness of Pilates Training on Body Composition and Isokinetic Muscular Strength in Adolescent Baseball Players :	共著 共著 共著	2020年5月 2020年5月 2022年10月	American Academy of Physical Medicine and Rehabilitation. Volume12, Issue5 Pages 479-485 The Journal of Physical Fitness and Sports medicine. Volume 9 Issue 3 Pages 127-134 International Journal of Environmental Research and Public Health. Volume 9 Issue3 Pages 127-134	健全成人男女の腸脛靭帯の Strain Ratio の性差を内反膝の有無により検討し、内反膝を呈する女性は荷重する時に腸脛靭帯の Strain Ratio が高いことが得られた。この結果から内反膝を呈する女性には、荷重時に腸脛靭帯に大きなストレスが加わることが検証され、女性の高い腸脛靭帯炎の発生率との関連性が示唆された。筆者は資料調査、データ収集及び分析、執筆を担当した。 内反膝を有する女性は、正常膝の女性よりランニング時に大殿筋と大腿筋膜張筋の筋活動量が高く、その結果、ランニング後の腸脛靭帯の硬さが増加することを発見した。この結果から、内反膝を有する女性に腸脛靭帯炎が多く発生する原因が究明できた。筆者は資料調査、データ収集及び分析、執筆を担当した。 成長期の野球選手における8週間のピラテストレーニングが選手の筋力、体組成に与える影響について研究を実施し、ピラテストレーニングが成長期野球選手の除脂肪量や筋力を増加させ、パフォーマンスの向上に有効なトレーニングであることを明確にした。筆者は、データ分析、資料調査、執筆を担当した。
(その他) 学会発表 1. Validity and reliability of isometric hip abductor and external rotator strength measured using a pull-type hand-held dynamometer 2. 競技特性と股関節外転・外旋筋力の関連性について 3. 内反膝の有無と肢位の違いが腸脛	共著 共著 共著	2015年7月 2015年9月 2016年9月	The 6 th Northeast Asia Conference on Kinesiology, Japan (Poster) 第70回日本体力医学会、和歌山(ポスター) 第71回日本体力	股関節の外旋・外転筋力をハンドヘルドダイナモメーターと等尺性筋力測定装置を用いて測定し、ハンドヘルドダイナモメーターの妥当性や測定の信頼性を検討した。 共著: <u>Da Yoon Kim</u> , Byungjoo Noh, Daeho Ha, Masahiro Takemura 大学女子バスケットボール、女子ラクロス、女子サッカー選手の股関節筋力を測定し、競技による筋力の特性を検討した。 共著: <u>金多允</u> , 宮川俊平, 福田崇, 竹村雅裕 姿勢別の腸脛靭帯のストレインを超音波エラ

靭帯のストレインに与える影響			医学会、岩手（口頭）	ストグラフィーを用いて測定した。その結果、内反膝を有する女性は荷重する時に腸脛靭帯のストレインが高くなる結果が得られた。 共著：金多允、宮川俊平、福田崇、竹村雅裕
4. The association of alignment in lower extremity and strain of iliotibial band	共著	2016年11月	The 7 th Asia Conference on Kinesiology, Korea (Poster, Mini-Oral)	腸脛靭帯のストレインを増加させる因子を検討した。内反膝を有することにより、腸脛靭帯に大きい張力が加わることが示唆された。 Dayoon KIM, Shumpei Miyakawa, Takashi Fukuda, Masahiro Takemura
5. Iliotibial Band Strain is affected by posture and sex	共著	2017年7月	The 22 nd Annual Congress of the European College of Sport Science, Germany (Mini-Oral)	異なる肢位での腸脛靭帯のストレインの性差を検討した。女性は男性より立位時の腸脛靭帯のストレインが高いことや男性は膝屈曲時にストレインが高いことが明確になった。 Dayoon KIM, Shumpei Miyakawa, Takashi Fukuda, Masahiro Takemura
6. 腸脛靭帯のストレインの性差検討	共著	2018年9月	第73回日本体力医学会、福井（ポスター）	Shear-wave elastography を用いて腸脛靭帯のストレインを測定し、性差を検討した。腸脛靭帯のストレインは男女で異なることが示唆された。荷重時に女性の腸脛靭帯ストレインが増加したことにより、女性に腸脛靭帯炎の発生率が高いことがストレインの増加が関係すると推察された。 共著：金多允、宮川俊平、福田崇、竹村雅裕
7. Bilateral characteristics in strain of iliotibial band and lower extremities alignment in middle-distance runners	共著	2019年7月	The 24 th Annual Congress of the European College of Sport Science, Czech (Poster)	中長距離ランナーの腸脛靭帯ストレインの左右差を検討し、左の腸脛靭帯ストレインが右より大きい結果が得られた。左方向でトラックを走る陸上競技では、左脚により大きい負担がかかっていることが示唆された。 共著：Dayoon KIM, Shumpei Miyakawa, Takashi Fukuda, Masahiro Takemura
8. バレーボール選手の反復スパイク動作が肩関節に与える影響	共著	2019年7月	第8回日本アスレティックトレーニング学会学術大会、東京（ポスター）	バレーボール選手における反復的なスパイク動作が肩関節に及ぼす影響を調査し、反復的なスパイク動作はバレーボール選手の肩関節の可動域低下や肩関節周囲筋の硬度を増加させることが明確になった。 共著：新崎茂吉、金多允、福田崇、向井直樹、白木仁、宮川俊平、竹村雅裕
9. 大学柔道選手の軽量級と重量級のバランス能力の比較	共著	2020年11月	第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会、東京（ポスター）	大学柔道選手の階級におけるバランス能力と身体機能の関連性を検討した。軽量級選手は重量級選手より動的バランス能力が高い結果が得られた。 共著：吉田一也、金多允、岡田弘隆、向井直樹、竹村雅裕
10. The influence of lower extremity malalignment on running related injury	単独	2022年8月	The 12 th Asian conference on kinesiology, Australia (オンライン開催) (High-lighted symposium)	「Running science for keeping better condition to prevent overtraining and overuse injury-」をテーマとするシンポジウムで、下肢のアライメントとランニング傷害について講演を行った。
11. 内反膝における姿勢制御能力や筋活動の特徴について	共著	2022年9月	第77回日本体力医学会大会、栃木（オンライン開催）（ポスター）	内反膝における姿勢制御能力とその際の筋活動の特徴を検討した。内反膝を有するのは、姿勢制御時に大腿筋膜張筋や大腿直筋の活動量が多く、中殿筋より大腿筋膜張筋の筋活動量が高いことが明らかとなった。この結果から内反膝を有するものは姿勢制御時に大腿筋膜張筋がより多く活動して、スポーツ障害のリスクが高くなることが示唆された。 共著：金多允、竹村雅裕
:				

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。